

2025年3月31日 日本テレビ定例社長会見

《要旨》

冒頭

先週3月24日に放送した「月曜から夜ふかし」の中で『この春上京する人へのアドバイスを聞いてみた件』という企画があった。その中の街頭インタビューで、中国出身の女性のエピソードを紹介したが、この内容が女性の発言の趣旨とは全く異なる内容となってしまった。番組の制作スタッフが「とにかく面白くしたい」という思いで、意図的に編集をしたことが原因と報告を受けているが、このような事は演出の範囲を超えており、あってはならない事だと考えている。女性ご本人並びに視聴者の皆様に改めて心からお詫び申し上げる。

日本テレビでは、直ちに今回の事実関係及び原因の確認を行うとともに、同様の事態が二度と起こる事の無いように、番組制作のプロセスを徹底的に見直し、新たな施策と共に再発防止に努めてまいる所存。事案の確認後、直ちにコンプライアンス部門と共に当該番組内で研修を実施した。また現在「月曜から夜ふかし」では街頭取材を一切止めており、制作ルールを改めて徹底してから再開することになっている。

リリースやホームページで、SNSを含め、女性に対する誹謗中傷につながらないよう番組映像・画像等を使用したりしないよう現在呼びかけさせていただいている。この場を借りてお詫びさせていただくとともに、ご迷惑をかけた女性へのご配慮をいただくよう切にお願い申し上げます。

1. 営業状況

・放送収入

2月単月、タイムは前年のうるう年の反動減収があったため前年比97.0%。スポットは東京エリアを中心に比較的良い状況で、ほぼ前年並み100.0%。タイムとスポット合わせてのトータル前年比は98.7%になった。3月は「MLB日本開幕シリーズ」の単発と、スポットも好調が続いているので、2024年度の着地は想定以上に良いと考えている。

・放送外収入

舞台「となりのトトロ」ロンドン公演は、3月20日にロンドンのジリアン・リン・シアターで開幕した。イギリスでの公演は3年目を迎え、今回は無期限のロングラン公演となっている。日本の題材で、日本の企業が幹事となってロンドンでロングラン公演するのは初めての出来事。多くの皆様に見ていただける事を楽しみにしている。また、この舞台の来日公演を楽しみにしていられる皆様には、もう少しお待ちいただきたい。

2. 質疑他

Q. 2024年度の総括・振り返り・社長の所感など

A. 2024年度の視聴率、コアターゲット(戦略ターゲット)は3冠を獲得したが、個人視聴率は残念ながらゴールデン1冠にとどまっている。挽回をしなくてはならない新年度となっている。

今年度は「パリオリンピック」「MLB 日本開幕シリーズ」といった大型スポーツコンテンツを放送したことで、視聴者の皆様に感動と熱狂をお届けすることが出来たと思っている。

ネットワーク局の寄付金の不正行為のあった「24時間テレビ」は、テーマを「愛は地球を救うのか?」とし、上田晋也さんを総合司会に迎え、チャリティーマラソンランナーにはやす子さんに努めていただき、初めて目的別募金を実施して「マラソン児童養護施設募金」を開設した。寄付金の管理・監視体制については次回に向けてさらに改善し、対応していきたいと考えている。

ドラマ制作については「制作指針」を策定し、現在は指針に則って制作活動を進めている。1月期のドラマ、バカリズムさん脚本の「ホットスポット」が、放送・配信において大きな話題となった。SNSによる考察や、聖地巡礼といった、テレビから起こるムーブメントを久しぶりに作る事が出来たという手応えを感じている。

また放送法改正によって、NHKの地上波などの同時・見逃し配信がこれまでの「放送の補完」から「必須業務」となった。今年10月の必須業務としてのスタートに向けて、民間との公正な競争確保やネット空間での情報の多元性が大切という認識に立った上で、総務省の競争評価検証会議が健全かつ十全に機能するよう見守っていききたい。また必要に応じて問題提起もしていきたいと思っている。

4月からの新年度も生活者の皆さまに明るく元気になれる番組を届けていきたい。応援を何とぞよろしくお願い申し上げます。

Q. 4月改編の狙いと期待、新番組や枠移動について

A. 25年4月期改編は「新ワク」というキャッチコピーをつけて展開。まず、水曜夜8時から、「千鳥かまいたちゴールデンアワー」を編成する。今、テレビで一番勢いのある千鳥・かまいたちさんによる誰もが楽しめるバラエティーを放送する。水曜は「有吉の壁」、新番組の「千鳥かまいたちゴールデンアワー」、その下に「上田と女が吠える夜」、そして枠移動して戻した「水曜ドラマ」を置いた。コア層をメインターゲットとする水曜の流れをつくっていききたい。

土曜の夜8時には、長らく水曜の夜に放送してきた「1億人の大質問!?笑ってコラえて」を枠移動する。土曜日のファミリー視聴を促進し、個人視聴率のアップを目指す。そして夜9時～「土曜ドラマ」、夜10時～「with MUSIC」と続く編成にする。

日曜の夜9時には新番組「Golden SixTONES」を編成する。若年層から圧倒的に支持されているSixTONESがスペシャルなゲストとのコミュニケーションを通してエンターテイナーとして大きく成長していく様をぜひ見ていただきたい。

土曜は午前から午後にかけての構造改革を読売テレビさんと共に行う。長く続いた「ズームイン!!サタデー」を終了し、日曜に加えて土曜の朝も「シューイチ」を編成。「ウェークアップ」も終了とし、午後のニュース・情報番組のニーズに応えるべく、読売テレビさん制作で「サタデーLIVEニュースジグザグ」を編成する。ご期待いただきたい。

Q. 3月に放送された「MLB開幕戦2025」の手応えと、日本プロ野球開幕・ジャイアンツへの期待について

A. 放送は18日(火)の開幕戦で個人19.9%、コア10.2%と、我々の期待と想定を超えるもの

だった。MLBプレーヤーのスキルやパワーを目のあたりにすることが出来た。全試合中継させてもらった幸せと名誉を感じている。また、日本テレビの映像制作がMLBに認められ、国際映像も担当した。ポリュメトリック映像などに興味を持っていただき、日本テレビの中継力を世界に評価していただいた事も成果だと思っている。

ジャイアンツの開幕3連戦も順調で、こちらも我々の想定を超えてきたと思う。開幕戦で5点差ついた段階では「このまま負けてしまうのか?!」と思ったが、終盤の大逆転劇は素晴らしかった。今年こそ期待が持てると思ったし、ファンの皆さんも盛り上がってくれていると思う。

特に新戦力の甲斐拓也選手、キャベッジ選手、そして守護神マルティネス選手らが頼もしく、シーズン通して活躍していただけると期待している。今年こそ日本一という、阿部監督はじめ、コーチ、選手の皆さんの気持ちが勝利を決めた開幕3連勝だったと思っている。

Q. 「月曜から夜ふかし」の問題発覚の経緯について

A. ご迷惑をおかけしている女性、視聴者の皆様、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。経緯については再発防止のためにも認識しなくてはならないと思っており、各所聞き取りを行っている。当該ディレクターは、「とにかく面白くしたい」ということで、自分の判断で編集したと語っている。そこに他の人物の意志は介在していないという認識でいる。当然プロデューサーや演出等が放送前に下見をしていたが、残念ながら不適切な編集には気付かなかった。ならば「今後もしこういった事が起きるのでは?」というご指摘はごもっともだと思う。現在再発防止策を検討している。

Q. 「月曜から夜ふかし」の街頭インタビューの停止について

A. 街頭インタビューは、事態を把握してすぐにやめている。制作体制の再確認、再発防止が100%機能するという確信をもって再開する。街頭インタビューは報道番組・情報番組でも行い、バラエティー番組でも頻繁に行っている。インタビューに協力してくださった方のコメントを曲げて伝えるのはあり得ない話。バラエティーの場合は長い時間お話をうかがって、それを短く編集することは通常行っているが、今回のような不適切な編集は大変不本意に思っており、あってはならないことだと思っている。

Q. 「月曜から夜ふかし」放送時のスーパー、「中国全域ではありません」という注釈について

A. 番組のプロデューサーがVTRチェックの段階で、事実確認が必要であると判断し、当該ディレクターではなく担当プロダクションに事実確認をさせた。その確認の結果、「中国の一部の地域ではある」という情報が入ったので、恒常的なものではないということを表すために「中国全域ではありません」という断りを入れた。

つまり、事実確認の指摘はしていたのだが、今回の問題は事実確認以前の問題で、インタビュー素材を全て見ていたわけではないので、不適切な編集をしていたことは、出来あがったVTRからはわからなかった。問題に気付くことが出来なかった。今後は再発防止を検討している。

Q. 人権アンケートの実施について

A. 3月、日本テレビとして人権デューデリジェンスの観点から、全社員にアンケートを行った。回答の内容やその結果については、今後、外部専門家の意見も聞きつつ分析を行い、必要に応じて公表も予定している。

Q. 浜田雅功さんの休養と出演していた番組について

A. 「ダウンタウンのガキの使いやあらへんで！」については、4月20日放送分までは収録済み。以降は一日も早い浜田さんの体調回復を待ちながら見守っていきたい。今のところそれ以降の番組の休止は予定していない。4月20日放送以降、浜田さんが不在の場合の番組出演者に関しては状況と企画に応じて検討していく。

Q. 本日3月31日のKAT-TUN解散について

A. 日本テレビの番組に数多く出演していただき、大変お世話になった。実は先ほど亀梨和也さんが挨拶のために来社して下さった。KAT-TUN最初の冠番組「カートゥンKAT-TUN」の懐かしい話、ドラマの思い出話などに花が咲き、とても良い時間になった。これからも亀梨さんに限らず、KAT-TUNメンバーだった皆さんを応援していきたい。

(了)

福田 博之	代表取締役社長執行役員
柴田 岳	取締役副社長執行役員
澤 桂一	取締役常務執行役員
山田 克也	取締役執行役員
松本 達夫	取締役執行役員